

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成 19 年 7 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091100026		
法人名	株式会社 シェイクハンズ		
事業所名	グループホーム 清水の里		
所在地	福岡市南区清水3丁目5-13 〒815-0132 (電話) 092-551-0008		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年7月6日	評定確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人 常勤	3 人 非常勤	8 人 常勤換算 9.05 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての～ 1～2階部分		
------	---------------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 100,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日あたり 円程度			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 社団相和会 中村病院 ・ 福岡徳洲会病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

現代表と施設長は去年までの運営法人の関係理事を勤めており、認知症の身内の介護を通じて自分たちの理想に近いグループホームを運営するにあたり、現行法人を立ち上げ移譲してもらったという経緯を持つホームである。女子寮を改築して建てられており、ホーム玄関先やホーム周囲には、季節の花が咲きほころび、ホーム内の共有スペースに飾られている入居者の穏やかな表情のスナップ写真から、一人ひとりが自由に安心して生活おられることが伺え、落ち着くことのできる家庭的なホームである。浴室改造がなされた後は、入居者が安全で好きな日時に入浴を楽しめるなどの居心地の良い馴染みの空間づくりの工夫がなされ、全職員が一丸となってサービスの質の向上に取り組まれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 現行法人として、今回が初めての外部評価実施である。評価の結果を家族や運営推進会議、行政、全職員へ報告し、質の向上に向けて共に協議、改善へと取り組んでほしい。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 評価実施にあたり、スタッフ会議にて全職員で今の状況を改善していくことなどについて協議する取組みがあった。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 民生委員、各区の自治会長、消防分団長、家族代表の出席のもと、運営推進会議を実施している。運営推進会議の際、看板を見やすくしてほしい等の提案を反映し、ホームの看板をつくりかえたり、広報紙を配布することにより近隣の方からの協力体制が得られたり、消防分団長の見回りが行われるなどの取組みにつながっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族の面会時の声かけや家族会を利用しての働きかけ、自宅を訪問しての家族の意見や意向の把握に努めている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 運営推進会議の際にホーム行事への参加を呼びかけ、毎月2回アニマルセラピー犬とのふれあいには、近隣住民や保育園児の参加があり、また保育園行事へ参加するなど相互交流が図られている。運営推進会議時のホーム行事参加への呼びかけ、日常の散歩や買い物時の挨拶など、ささいな交流を通じての地域の方々との結びつきが営まれている。保育園児の登下校時等の声かけなど、地域との交流への取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	現法人へ移行した際、施設長、管理者で協議を行な い理念を再度作成している。事業所と地域との関係 性を意識した理念の内容である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。月1回の スタッフ会議、日々のかかわりのなかでの昼のミー ティングの際に、入居者一人ひとりについて理念に基 づいたケアの内容について協議がなされ、理念の実 践に向けた具体的な取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	運営推進会議時にホーム行事への参加を呼びかけ 書道の先生がみえたり、ホーム行事や毎月2回アニ マルセラピー犬とのふれあいには、近隣の方や保育 園児が参加している。近隣の保育園の誕生会への参 加、日常の散歩や買い物の際の挨拶など、地域交流 への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回が現行法人としての初めての外部評価の実施 である。外部評価の結果を踏まえ、毎月のスタッフ会 議で、スタッフ全員で今の状況を改善していくことにつ いて協議するなどの取組みがある。このなかで2ヶ月 に1回地域運営推進会議が定期的に行われるなどの 成果がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員、各区の自治会長、消防分団長等の出席のもと、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。運営推進会議時、提案と様々な意見をいただいている。広報紙の配布により近隣の方々からの見守りや声かけが頻繁となり、消防分団長の見回りが行われるなどの取組みへ繋がっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口に出向き、相談・意見を言ったり、運営推進会議への参加の呼びかけなど、サービスの質の向上に向けた取組みはあるが、地域包括支援センターの運営推進会議への参加はなく、これからの課題である。		運営推進会議の内容を市町村の担当者等へ報告することをきっかけに関係作りを図り、ホーム行事の案内や参加を通じて協働関係への働きかけを続けてほしい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用した入居者がおり、職員からの支援への取組みがなされている。家族会で制度の説明はなされているが、職員やすべての入居者の家族への制度の説明や勉強会等への取組みはこれからの課題である。		全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解ができることへの取組みや必要なときに確実に利用できるように制度の相談機関の紹介など家族への積極的な働きかけを行ってほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や家族会の開催時、写真を閲覧していただきながらの入居者やホームについて説明等を行っている。広報紙を配布し、職員の紹介の報告やその都度電話での働きかけ、家族を訪問しての状況説明など、家族の状況に応じた働きかけが行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会時等を利用しての意見の把握が行われている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は少なく、新規採用時には就職する前に数回遊びに来てもらったり、馴染みの職員が多くかわるようするなど工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。職員が楽しいと思う職場づくりを目指し、職員の特技を生かしてケアを行ってもらうなどの配慮がある。資格取得を目指す職員に対しては勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回のスタッフ会議時の勉強会で言葉遣いなど認知症高齢者への対応等を通じての取り組みはあるが、広く差別問題や障がい者問題などの職員の人権意識を喚起するような勉強会・研修などへの取り組みまでには至っていない。		認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味において、行政などの研修への参加など、さまざまな機会を利用して、積極的に取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修案内の提示閲覧など、研修参加への機会の確保と研修参加の実績がある。月1回のスタッフ会議で報告会や報告会の閲覧による周知がなされるなど知識の共有に努めている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知人の事業所との電話相談や他のグループホーム職員の方を招いての勉強会を行うなどの取り組みはあるが、職員レベルでの相互交流や連携等はこれからの課題である。		グループホーム協議会を通じての同業者との交流とネットワークづくりを諮るなど、職員の質の向上に向けて、さらなる事業所との連携や情報交換などに取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昔ながらの季節毎の行事や食べ物等についておそわったり、回想法を交えて様々なことを学ぶなど日常のかかわりや、台所でのかかわりの中で学ぶ取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりに応じた野菜切りや花の水遣り、洗濯物をたたむなど日常のかかわりの中で自然と学びともに支えあう関係づくり、入居者の昔話などの会話を通じて職員自らが学ぶ取り組みがある。		把握した入居者の希望や意向などの情報を日常の記録の中に埋もれさせてしまうのではなく、センター方式を利用した取り組みを生かし、今以上に個別記録の充実と整理を行い、職員間の情報の更なる共有化に努めてほしい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なかかわりを通じて、入居者の希望や意向の把握に努め、家族の面会時や家族会時、自宅訪問等を通じ、家族の意向の把握などに努めている。把握した情報はセンター方式を利用して記録がなされているが、介護計画と連動させての整理、情報の共有化までには至っていない。		把握した入居者の希望や意向などの情報を日常の記録の中に埋もれさせてしまうのではなく、センター方式を利用した取り組みを生かし、今以上に個別記録の充実と整理を行い、職員間の情報の更なる共有化に努めてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時の声かけや自宅訪問、日常のかかわりの中で入居者や家族の希望の把握に努め、担当職員がセンター方式を利用して原案を作成し、月1回のスタッフ会議や日々のミーティング時に全職員で協議検討を行うなどの取り組みがある。		センター方式を利用した取り組みを活かし、今以上の個別記録の充実と整理を行い、職員間での情報の更なる共有化に努めるなど今以上の共通理解を深めてほしい。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直し、毎月のスタッフ会 議における協議や日々のかかわりの中でのミー ティング等で、必要に応じたその都度の話し合い が行なわれている		状態の変化がなくても、月に1度のカンファレンスを 確実にを行い、モニタリング表による見直しを活用する など更なる情報を共有化し、入居者の現状の把握と 現状に即した介護計画の作成に取り組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	食事療法や運動療法を受けながらのホーム生活 の継続の支援、ホーム協力医との連携による早期 退院への働きかけや入院の回避などの支援、行き つけの美容室利用時の支援などがある。地域の方 がホームに相談にみえるなどの関係作りはこれか らの課題である。		ホーム行事や地域行事を利用した相談会の実施 など、ホームが積み上げてきた専門性を地域に還元 する場をつくり、自然とホームに訪問・相談にこられ るような関係作りに努めてほしい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホームとしてのかかりつけ医があり、24時間 何時でも対応可能である。ホームのかかりつけ医 による毎月1回の往診がある。また入居者の以前 からのかかりつけ医の受診について、ホームの対 応にて支援するなど取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、家族会の中で家族の 希望を聞き、家族の意向を全職員へ報告するなど の取組みは行われているが、内容を具体化した協 議までは行われていない。今後、家族全員にアン ケートをとることを検討中である。		まずは、重度化した場合の本人・家族の希望 の確認から始めるなど、できるだけ早い段階で の働きかけを行い今後予想される状況変化に応 じた繰り返しの話し合いと、段階に応じての合 意を得て本人・家族の希望に沿っての支援体制 作りに取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者に合わせた丁寧な声かけや馴染みのある声かけなど、入居者を尊重した言葉かけや対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日々の過ごし方、食事のペース、食後の過ごし方など日常生活のあらゆるところにおいてその日そのときの入居者の気持ちを尊重した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員と入居者は一緒に食事をとり、楽しく食事ができる雰囲気であった。昼食のみ外部からの配食であり、朝食・夕食のメニューは入居者の希望を聞きながら作成し、入居者に野菜の皮むきをお願いするなど役割分担ができており、職員は役割を尊重した対応が見られた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴が可能であり、現在浴室を改築されており、改築後は入居者の今までの生活パターンを重視し、入居者の希望する日や時間などに沿った支援がなされるとのことであった。		改築後は、入居者の希望する日や時間に入浴していただけるよう取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	料理の盛り付けや庭の手入れ、手すりの掃除、 洗濯物たたみ、日常の散歩や買い物など入居者の 一人ひとりのできることや得意なことを把握した うえでの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常生活での散歩や計画的な外出・外食、お弁 当を持って戸外に出かけるなど積極的に出かけて いる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に鍵は開錠されており、自由に出入り できる。職員は入居者の様子をきめ細かく観察・ 見守っており、さりげなく声をかけたり一緒につ いて行く、入居者の自由な暮らしを支える対応と 安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年1回消防署と入居者がかかわった避難訓練を 実施し、地区の消防分団長の方の見回りがあり、 近隣との連携の中での協力もなされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、栄養状態の把握や 水分摂取への声かけ、口渇のある入居者へはペッ トボトルを手元に置くなど水分確保に努めてい る。また、体重の増減や体調の変化の把握にも努 めている。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールの壁に入居者の和やかな心と写真 が掛けられ、ホーム内に季節の花を飾るなど心安 らぐ家庭的な工夫がある。ホームの外の庭に花が 植えられ、周囲に野菜が育てられているなど季節 感や自然を取り入れる工夫がなされている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居室には仏壇や位牌、写真、テレ ビなど入居者にとって馴染みの物が持ち込まれて おり、安心して居心地良く過ごすための工夫や配 慮がなされていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号